

教員の定年後生活（第2報）

—定年後の準備—

共立女大 ○細江容子 お茶女大 袖井孝子 大塚洋子 福島裕子
 横浜福祉専門学校 竹田久美子 青葉学園短大 長津美代子

【目的】 ここでは、退職教員が退職後の生活や老後についてどの様に考え、どの様に準備し、退職後実際にどの様な生活送っているのかについて見ていくことにする。

【方法】 第一報に同じ

【結果】 結果を要約すると以下のようになる。

①女性より退職意識年齢が早くその差は5歳ほどである。②再就職についても、男性の半数（51.6%）が再就職を経験しているのに対して、女性では16.4%と少ない。③再就職先は、男性では勤め人が6割を占めるのに対し、女性は教師・講師が6割を占めている。④退職準備に関しては、男女共に半数は「退職金・年金」で、次に多いのが男性では「健康」であったが、女性では「何もしなかった」とする者が多い。⑤退職準備をしなかった理由は、男性では「特に必要を感じなかった」が6割と一番多いのにたいし、女性では「仕事が忙しかった」が一番多く5割弱となっている。⑥退職不安について見てみると、男女共に「健康」が一番多く、次いで「生計維持」であり、三番目には「生きがい・余暇」となっており、「生きがい・余暇」を挙げる者は男性管理職に多い。⑦生活設計の有効手段は「先輩の話を聞く」が多く、次いで「講習会に出る」である。⑧退職準備プログラム利用意向については、「あれば利用したさう」とする者が男女共5割以上あり、「既に利用した」とするものが2割ほどである。⑨退職後生活では、「悠々自適型」が男性6割、女性8割弱と多い。⑩定年後大切なことは、男女共に「健康」が一番多く、次いで男性では「趣味」、女性では、「収入」である。